14.5.26 第272号

中部勞働界附錄

日陶爭議特別號

名古屋 中區東外堀町十ノ三
發行所 中部勞働組合聯合會
編輯兼印刷人 岩田秀一
發行人 光谷宗治
名古屋市南區西古渡町柳田六十番地
印刷所 勞文社

我等は何故に戰ふか

日本製陶勞働同盟
則武陶工組合爭議團

全日本の勞働者諸君

我々日本製陶勞働同盟に加入せる日本陶器株式會社工場部員百二十名は、今や二千萬圓の巨大なる資本を擁し三千名の從業員を有する、名古屋最大の工場、日本陶器株式會社を敵手として決死的爭を續けて居る、一見餘りに無謀なる此の戰ひ…………巨然として僅か百有餘人の小組合を以て敵に抗爭するのは何が爲であるのか。

我等は勞働者の團結權を死守するのみ

諸君、我等は斷じてこの無謀なる戰ひを好むものではない、否たとへそれが勝算に歴たるものあつても、我等は正當にして而も萬已むを得ざる理由あるにあらざれば、我等は決して濫りに戰ひを欲するものではない此の度に於ても、我等は最初より極力戰ひを回避して平和の裡に圓滿なる解決を求むべく、あらゆる最善の努力を盡して會社の反省を促したのである、然るに巨大なる金力と權力とを擁する會社はあらゆる我等の忍辱を蹂躙して唯一の生命なる我等の團結權を無視し、我等に無條件を以て組合を脫退すべく強要し組合を脫退せざれば即時懲罰解雇に附すべしと威嚇し、我等百二十名の同志を工場より締出すに至つたものである、而も諸君尚聽け、

會社は一と度我等の組合を承認したのだ

前述の如く會社が我等に組合脫退を強要して工場締出を行つたのは三月三日の午後三時全く青天の霹靂の如き突然の出來事であつたが、僅かにその四日前である二月の二十七日には、會社の取締役兼支配人伊勢本一郎氏は、公式に我等の代表者を招き數次の會談の結果、諸君の組合運動が眞に誠實であり且つ飽迄熱心であることが認められるので、會社でも頑固なことばかり云ふても居れぬから諸君の組合加入を承認してやる事になつた

と通告し、更に翌二十八日には組合代表者十餘名、下級社員役付職工等數十名を一堂に召集して伊勢氏自ら烏呼がましくも勞働問題に關する一場の演說を試み

會社は從來溫情主義を以て立ち諸君の組合組織には絕對に反對して來たが、時世の變化に顧みて今後は溫情主義と云ふやうな不徹底な事では行かないので主として權利義務の觀念を基調として萬事を行ふことゝした、依つて一面諸君の勞働組合組織をも認めることゝし、諸君にして完全なる理想的な組合を作らるゝならば、會社からも進んで相當の援助をもする方針である、

と所謂御用組合創立を慫慂し更に進んで、

> **改稱**
>
> 西部陶畫工組合は今回より下の如く改稱し同時に規約全部を改正して陶畫工轆轤工窯焚き荷造り其他製陶産業の一切の部門に從事する勞働者の加入し得るものになりました生地部荷造部窯焚き部の諸君も此際奮て加入せらるゝやう希望します
>
> 大正十四年三月
>
> 日本製陶勞働同盟
> 則武陶工組合

從つて現在工場一部の人々が外部の組合、日本製陶勞働同盟に加入して居るが、よく話して見ると其等の人々も至極穩健で眞摯な考へを持つて居るのだから、會社の希望には反する點もあるが之も其儘承認して置く

と、無論其席には他の重役も列席して堂々聲明したものである、無論一點疑ふ餘地なき白晝公然の事實である

諸君、他年望みに望んだ組合が漸く承認されたのだ、之がために我等の同志は血の涙を流して幾多の犧牲者を見送つて來た、我々が此の聲明を聞いていかに喜んだかは一に諸君の想像に任せやう此時ばかりは我等は日頃の怨みも忘れて伊勢氏の前に跪きたいばかりに感謝の念にさへ滿されたのだ

總ては僞瞞だつた資本家は俄然假面を脫いだ

この會の了つて後も、彼等重役は我等に向つて「君等の組合の發會式はいつ擧げるのか僕も是非往つて祝詞を述べてもよい」等と云ふ親しげに話掛けて居たのだが、嗚呼何等の卑劣ぞ、それはすべて我等を瞞き我等を御用組合に誘ひ込み、我等が三千人の兄弟と共に、血と涙とを以て築き上げたる陶勞働同盟より脫退せしめんが爲の僞瞞手段に過ぎなかつたのだ

三月三日、名古屋の二大新聞が日本陶器株式會社が勞働組合を承認した旨を報導するや、會社は俄かに周章狼狽し、同日午後三時に至るや突如何等の豫告なしに組合代表者を招いて即時組合を脫退せよ、然らざれば懲罰解雇にすると威嚇し、工場内部の組合に加入することは認めるが、會社に忠誠ならざる外部の組合に加入する如きは怪しからぬとの趣旨の張紙を爲し明朝迄に回答せよと我等を工場より返却した、

會社が豹變した眞實の原因は何か？

諸君、いかに無恥、無節操、無見識なる資本家とはいへ、斯の如き豹變、斯の如き暴斷を敢てすることは殆んど常識を以てしては信ずべからざる事ではないか、而もそれは嚴然たる事實である、一點の虛僞も誇張もなき眞實である、我等は今は敵ながらも、堂々たる日本陶器株式會社の爲めに、斯の如き餘りにも見醜き卑劣、無節操、無恥、暴虐を悲しまざるを得ないのである、而も此の悲しむべき暴虐を敢てする理由として、取締役伊勢本一郎氏の公言する所を聽け、

アノ樣に云ふたのは君達の氣を引いて見る爲の手段に過ぎなかつたのだ、それが第三者の誤解を招いて、會社が勞働組合を承認したと云ふやうな事が新聞等に出ては、自分達の立場として非常に困る之が第一の理由

次には、アノ樣に會社が理想的な勞働組合を作ると云ふ事は、諸君は組合運動に熱心な人達だから、直ちに大賛成で、熱心に外部の組合等は奔走して呉れると豫期して居たのに、諸君の態度は一向冷淡で、自分等の方には既に共濟組合がある位なものだから、共濟組合だけ付けて置けばよいと云ふやうな態度になつたから自分達はもさう云ふ誠意のない態度では今後到底協調して行ける見込がないから會社も斷然本來の態度を明らかにしたのだ、

諸君、茲に至つては我等はもはや到底語るべき勇氣がないのである、痴か、狂か、無識と云ふも暴虐と云ふも言語道斷の極みである

而も尚我等は隱忍して飽迄會社の反省を促した

諸君、而も尚我等は最後の忍耐を以て戰ひを回避し、全力を盡して會社の反省を促した、即ち我等の代表委員六名は、翌四日は午前十時より午後六時迄、五日は午後一時より四時に至る迄伊勢取締役に會見して、或は正義の立場より會社の暴擧を責め或は利害得失を算へて縱橫に說破し殆んどあらん限りの熱誠と情誼とを披瀝して只管反省を促した而して最後に至つては遂に

我等の欲するものは唯組合加入の自由のみ、この一事だに認められなばその他はいかなる妥協にも協調にも應ずべし

と迄切言した、

而るに會社側の態度は、我等が讓れば讓る程益々暴慢を加へ「如何なる理由あるとも組合を脫退せざる者は解雇する」と頑張り、飽迄無條件屈服を強要し遂に理論破れ辭究して答ふる能はざるに至るや、無禮にも百二十餘名の正式委任狀を有する我等の代表者との交涉を拒絕するに至つたのである。

我等は尚調停委員會を提議した

會社側の無禮暴慢斯の如く言語に絕したが我等は尚且つ忍んで、最後には一つの新しき試みとして此の爭議を次の如き組織をもつ調停委員會に附し、その會議中は全員復業せしむべき案を提示した、

一、勞働側六人　一、會社側六人
一、中立六人　一、縣市社會課長四
大新聞代表者

即ち我等は比較的最も公正なると考へらる、前記の如き委員會に附すべく提議したが、會社は尚頑としてひたすら拒絕した、愛知縣社會課長、工場課長等も我等の提案を以て最後の方法ならむと、工場課長自ら會社に赴いて勸告したにも拘らず、會社は尚個體交涉を主張し、個人交涉を主張する一點張りで一切の調停をすら拒絕した

會社切り崩しに全力を注ぐ

而も彼日本陶器株式會社は、斯の如き大義名分に屬する大問題を議するに、一切の公明なる言論會議に依る事を回避して、卑劣にも金力權力を濫用して專ら暗夜の切り崩し運動に全力を傾け、深更二時三時、眠れる我等の家を叩いて札ビラを振り撒き、或は昇給させる、特選工にしてやる等と出鱈目の甘言を並べ立て、或は懲罰解雇にする等と威嚇する等、切れもせぬ竹光を振り廻して我等の切り崩しを講じて、あらゆる卑劣手段に全力を注いで居る、實に醜惡の極みである、然し

我等は勞働者團結權の爲に戰ふものである

我等の勝敗は決して我等百二十人だけの問題ではない實に日本陶器全職工三千人の共通問題である、否更に全日本三百六十萬工場勞働者の死活問題である

此一戰若し敗れなば勞働者の明日は暗黑である我等何の面目あつて全日本の兄弟に見へん

我等の決心は磐石よりも固い、我等は餓死する迄も組合を死守して必ず勝利を獲る迄戰ひを收めぬであらう、然し、

我等の組合は少さく力は弱い

願はくば全日本三十萬の組織勞働者諸君、特に

日本陶器三千人の兄弟達よ

諸君、我等と共通する此の問題の爲に、あらゆる迫害と苦痛を忍びつゝ、此の聖戰に從へる我等を助けて必ず最後の勝利を得せしめよ

勞資が勝つか敗くるかは一に諸君の應援如何に在る若し我等をして敗れしむるならば、諸君の明日もまた暗黑である

我等は諸君が、我等の戰ひの意義を十分に知り、諸君もまた此の聖戰を助くる爲に蹶起して速かに頑迷なる會社當局を反省せしむる爲に共に努力せられん事を切望する。